

令和7年度第1回神戸市歯科口腔保健推進懇話会 議事要旨

1. 日 時：令和7年7月22日（火）13:30 ～ 15:00
2. 場 所：神戸市役所1号館14階 大会議室（WEB併用）
3. 参加者：天野会長
（現地）：足立委員、岩崎委員、橋本委員、松木委員代理、丸山委員、宮本委員、山中委員、吉田委員（50音順）
（WEB）：明石委員、伊藤委員、神谷委員、土居委員、秀委員、安田委員（50音順）
4. 内 容

議題1 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第3次）」の進捗状況

事務局より、資料「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第3次）」の令和6年度の進捗状況について」を用い説明

（委員）

- ・歯科医師会が求めているような実施状況ではないが、フッ化物洗口の予算が付いて始まったことを非常に喜んでいる。この事業は、健康格差の解消だが、診療室でむし歯がある子呼んでも次に来ないし、診療室で歯科医師が言ったり学校で先生がすることは非常に難しい。健康格差を解消するにはこの方法しかないと思うので、ぜひとも広げてほしい。

（委員）

- ・訪問歯科衛生士の人材育成事業について、兵庫県歯科衛生士会では全域において2名ずつの歯科衛生士を育成しているが、歯科衛生士の介護保険に関する知識が低く、訪問に行くことのハードルが高い。そのため、訪問看護師等と情報共有をしながら進めていかなければいけない。
 - ・口から気づくMCI（軽度認知障害）について、歯科診療所は定期的に受診する患者さんが多く、認知行動に気づく歯科衛生士、スタッフは非常に多い。そのため、歯科医療従事者に気づいてもらうシートや患者に気づいてもらうためのチラシを作成し、歯科診療所に配布した。
 - ・日本歯科衛生士会の補助金で作成した「お悩みQ&A集」には、障がいのある方や障がいの疑いのある方々が、歯科診療所に通いやすくなるために、自分の情報を書くシートがある。それを学校や病院に渡すことにより情報提供をシームレスにするために作った。
- （会長）神戸市民の口の健康を守ろうという歯科医師会会長、歯科衛生士会会長の熱い声を聞いて、市民代表の委員はどう思うか。

（委員）

- ・フッ化物洗口液の配布だが、6年生のこどもがいるので洗口液を受け取った。保護者への説明会もなく、知識のない保護者は有機フッ化物との違いもわからず誤解したまま受

け取らないことも発生しているのではないかと感じた。保護者向けの「すぐーる」のメールも情報が少ないように思える。配布率は一体何%だったのかが気になる。

- ・保護者としては、もし幼稚園でフッ素うがいが行われたら目が行き届かないので少し怖い、子どもによって対応を変えるのは保育士の負担にもなるので難しいと思った。

(会長)

- ・保護者への周知が難しいことは当初から予想されていた。幼稚園でのフッ化物洗口は、ごくごく飲むような子以外は全く心配ない。

(委員)

- ・神戸市内の保育所・認定こども園でのフッ化物洗口の実施率は約 56%ぐらいだ。私立の幼稚園ではあまり行っていないが、もう 20 年実施しているが、安全性については保育士や学校の先生が本当に一生懸命やっている。たしかに 4 歳児にうがいをさせるのは非常に難しいので、最初にしっかり練習させている。希望しない方に関しては水でやっている。4 歳児、5 歳児の保育所等でフッ化物洗口を行っていることは保護者の方も知っていると思う。

(会長) これから保護者への説明の丁寧度が上がってくると思うが、事務局でそのような情報は聞いているか。

(事務局)

- ・希望を取るときにチラシを配布して、フッ化物の安全性について伝えているつもりだが、チラシをどこまで保護者が確認しているか把握できればと思っている。PFAS（有機フッ化物）と混同している方もいるため、チラシの中で PFAS との違いにも触れている。いかにフッ化物の安全性を周知していくかが課題だと思う。

(会長)

- ・フッ化物の誤解を解くには、ある程度の時間と労力がかかるかと思う。学校の先生でもあまりよく分からずに配っている方もいるかと思う。歯科医師会の思いが神戸市民の感謝の声となって返ってくるように、われわれも時間をかけて頑張っていきたい。

(委員)

- ・今は障がいのある子供への対策はされていないと思うが、将来的にそこまで広げていく計画はあるのか。

(事務局)

- ・始めたところのため、現在、特別支援学校に広げていく計画はないが、今の取り組みがうまくいけば、広げられるのではないかと個人的には思っている。

(会長) 順次、検討していくということだ。

報告① 小学校でのフッ化物利用の全校実施について

事務局より、資料「小学校でのフッ化物利用の全校実施」を用いて説明

(会長)

- ・全ての学校・学年でやらないのは、行政は予算を付けて効果があれば段階的に増やしていくため、すぐ全ての生徒にとはいかない。これでもかなりの額の予算が投じられているが、健康局のご尽力で増えていくと思っている。

(委員)

- ・実施するには予算が必要。本来は学校の先生にやってもらいたいが今は難しいので、外部人材をどう使うかが重要。神戸市の行政・教育をどう考えるか、その辺の融合を行政にお願いしたい。

(会長)

- ・学校の先生の負担にならないようなマンパワー利用が必要。これからフッ化物の恩恵を受ける子供たちの数も増えていくので、委員の先生方はじっくり観察してもらいたい。

報告② オーラルフレイル対策について

事務局より、資料「オーラルフレイル対策について」を用いて説明

(委員)

- ・トレーニングの効果検証として、報告書（概要版）を提出させていただいた。

(会長)

- ・フレイルの認知度がだいぶ高まってきた。本人がフレイル・オーラルフレイルかどうか自問自答する習慣も大事なこと。

(委員)

- ・昨年度、オーラルフレイルに関しての対策が実施されていなかったことを健康局長からも指摘された。そこで垂水区老人クラブでは今年度から、歯科医師会の先生にオーラルフレイル対策の講習、あんしんすこやかセンターからは認知症予防のためのオーラルフレイルの講演を実施した。老人会として力を入れていこうとしている。
- ・垂水区役所と減塩プロジェクトを行っている。高血圧もそうだが認知症や食事にも関係してくるため、併せて一緒に力を入れていこうと思っている。

(会長) オーラルフレイル対策の意識がだいぶ高まってきたようだ。

(委員)

- ・口腔機能低下症が保険病名だが、歯科医院での口腔機能低下症に対するアプローチが不足している。開業歯科医では機械を使うという施設基準がありハードルが非常に高い。
- ・報告データによると、続けてやりたいという方が結構たくさんおり心強いデータである。

(委員)

- ・オーラルフレイルに該当する方は神戸市内に7割以上で年齢とともに上がっていく。歯科医院でオーラルフレイルチェックを受けた際に指導されたことがあるのは4割だが、神戸市歯科医師会が作った動画を見た方は6%しかいない。動画を待合室でも常に流しておいてもらいたい。

- ・フレイルになる前にオーラルフレイルを見つけて対処すれば、フレイル自体を先延ばしにできると考えられる。むし歯や歯周病予防などの定期的な口の管理が健康寿命の延伸にもつながることをもっと市民に啓発する必要がある。
 - ・シルバーカレッジでは、フレイルの認知度は高くなってきていると感じているが、オーラルフレイルを知らない学生が多いので、もっと認知度を上げていきたい。
- (会長) ムーカスというものは確かに難しい。初心者の方が測ると、口を開けているのでどんどん乾いていく。特に冬場は寒いのでそうなるだろう。
- (委員) 検診者は前後で固定して同じ人が診るようにしていたので、術差ではなく、環境の差かと思う。

報告③ 口腔がん検診事業について

事務局より、資料「口腔がん検診事業について」を用いて説明

(会長)

- ・無料やクーポンなどに弱いのかかもしれないが、口腔がん検診がそれほど人気なのは堀ちえみさんのとき以来だ。

(委員)

- ・他の自治体でも口腔がん検診をしている。まだ大腸がんや肺がんほど数はないが、実際に検診でがんが発見されて治療することもあり、がんの手前の状態（前がん病変）の早期発見につながっている。今後も引き続き貢献していきたい。

(会長) アメリカでは口腔がん検診を毎年1回受けないと健康保険に入れないぐらい厳しいそうなので、神戸市民の皆さんも口腔がんに関心を持っていただければと思う。希望者が多くて何よりだ。

報告④ 訪問歯科診療・訪問口腔ケア事業について

神戸市歯科医師会 秀委員より資料「令和6年度 訪問歯科診療・訪問口腔ケア事業報告」を用いて説明

(会長)

- ・歯医者に行けない高齢の方のお宅に行き、オーラルケアをするのは地道で労力の要ることだ。着実にトータルのケアの実施回数が増えているので、このままずっと続けていきたい。

(委員)

- ・神戸市歯科口腔保健推進条例の中に歯科専門職の育成があるということで、歯科衛生士会もこちらに協力をさせていただいた。
- ・訪問の治療だけではなく、その後の口腔健康管理が重要ということで歯科衛生士がこの事業に入っており、歯科衛生士たちのレベルは高くなってきた。口腔衛生管理だけな

く、食べることや嚥下につながる口腔機能管理に関わる支援が十分にできている。ここに挙がっている人数は、単なる口腔ケアでなく食べることへの支援に重きを置いている。

- ・オーラルフレイルから口腔機能低下へつながる方が市民の中にはまだ多く潜んでいる。口から食べられなくなり、全身に影響を及ぼすので、もう少し軽い時期の人たちも拾い上げて行ってほしい。歯科衛生士会としても、歯科衛生士を地区ごとにバランス良く育てていきたい。
- ・今年度の登録者の研修会は、食支援ということで、栄養士会からお話を頂く。この事業が今後、食支援につながる場所も必要かと思う。

(委員)

- ・ぜひとも兵庫県栄養士会も関わらせていただけたらと思っている。歯科クリニックで管理栄養士が配置されているところもあるので、その中で歯科衛生士と連携を取りながら、参加できる場所があればぜひ関わらせていただければと思う。
- ・栄養士会のほうで歯科クリニックに勤務している管理栄養士がどのぐらいいるかの把握ができていないので、しっかり把握した上で、歯科クリニックの管理栄養士の教育をすることも栄養士会としては今後必要だと思うので協力をお願いしたい。

(会長)

- ・歯科衛生士会会長のやる気が言葉の端々に感じられた。歯科衛生士のレベルも上がっているというのは本当にいい話だ。

(委員)

- ・歯科衛生士会、栄養士会が確実に進歩しているところを見て、看護協会も遅れてはいけないと心新たにした次第だ。認知症対応も在宅でどう過ごしていただくかについては、やはりタグを組まないといけないかと思っている。

(会長)

- ・多職種連携が着実に地域で進んでいることが肌で感じられて、非常に情報を得られた。

(委員)

- ・口の中の状況を見て、こういう状況であれば歯科受診をお願いしたらどうかと促す、多くの職種で利用できるアセスメントツールを作っているのでも、各病院での活用をお願いしたい。特に看護師や訪問看護師、栄養士、歯科衛生士などが口の中を見て、こういう状況があれば歯科医につないでいただきたいというものを作っていて、神戸市のホームページにも上げているので利用いただけたらと思う。
- ・ただ、病院の中に歯科があるところに関しては、歯科で受診した方が地域の歯科医院に戻っていただくようなシステムをつくっておかなければいけないと思う。医科の受診率は年齢とともに上がっていくが、歯科診療の中で超高齢者の受診率だけ下がっている。それは入院したら歯科診療がそこで切れてしまい、そこから戻ってこないからだそう。

- ・病院の歯科に歯科医師を派遣している側からも、院内で口腔ケアをやった患者に関しては、その後も地域の中で回っていくような循環型の退院の指導をしていただきたい。

(委員)

- ・頑張ります。

報告⑤ 災害時歯科保健対策について

事務局より、資料「災害時歯科保健対策について」を用いて説明

(会長)

- ・いざというときのためにしっかり備えておくということなので、引き続きしっかりとお願いしたい。

報告⑥ 歯科口腔保健関連スケジュール（予定）について

事務局より、資料「令和7年度 歯科口腔保健関連スケジュール（予定）」を用いて説明